

第7回太平洋・島サミット「気候変動・開発フォーラム」  
城内外務副大臣基調挨拶(和訳)

トミー・E・レメンゲサウ Jr.パラオ共和国大統領  
太平洋島嶼国首脳の皆様  
国際機関代表の皆様  
ご列席の皆様,

本日、第7回太平洋・島サミットの機会に、このように卓越した太平洋諸国の首脳及び国際機関・地域機関の代表をお招きし、気候変動・開発フォーラムをここに開催できることを光栄に思います。お集まりの皆様は、それぞれ気候変動及び開発の分野において、実りある議論のために、参加者と共有できる深いご経験とお考えをお持ちであると確信しております。

皆様、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の報告書は、「気候システムの温暖化については、疑う余地がない」としています。これは気候変動の影響に脆弱な太平洋島嶼国にとって、喫緊の課題となっています。サイクロン・パムによりバヌアツ及び近隣国にもたらされた被害によっても明らかです。地球温暖化に対し、緊急に対策を講じていくことが、これまで以上に必要とされています。

日本は、太平洋諸国における地球温暖化対策に積極的に貢献してきました。日本は、省エネルギー、再生可能エネルギー、気候変動と関連した災害リスク削減及び関係する人材育成などの分野で、太平洋島嶼国と協力してきました。明日、開催される太平洋・島サミットにおいては、この分野でのさらなる協力の可能性が議論されることでしょう。それは、日本と太平洋島嶼国がこの地域における気候変動対策を強化するという、強い意志の現れです。

日本は太平洋島嶼国の努力を支持し、この関連で、太平洋諸島フォーラム(PIF)の首脳により2013年に採択された「気候へのリーダーシップに関するマジュロ宣言」を想起します。

更に、緑の気候基金(GCF)へ15億ドルを拠出するという、我が国の約束を実現するために必要な国内法が、5月13日に国会で成立し、昨日公布・施行されたことをご報告できることを、喜ばしく思います。我が国とGCF及び世銀との間で拠出取決めが取り交わされた後、GCFが稼働することを期待しています。GCFが、太平洋島嶼国のような、特に気候変動の影響に脆弱な国々において効果的に活用されることを切に望んでいます。

本日はヘラ・チェイクロウホウGCF事務局長にもご参加いただいています。チェイクロウホウ事務局長及び彼女のチームの建設的な努力にも期待したいと思います。また、GCFやその他の気候変動に関する多国間の取り組みの効果的な活用について実りある議論をするために、UNDP、世界銀行、アジア開発銀行及び太平洋地域環境計画(SPREP)にもお越し頂いています。

皆様、開発は、地球温暖化対策において必要不可欠のものです。気候変動分野における効果的な開発協力は、実際の緩和・適応ばかりでなく、パリにおいて開催されるCOP21における、主要な温室効果ガス排出国を含む全ての国が参加する、公平かつ実効的な枠組みの採択に向けた信頼関係を醸成し、政治的なモメンタムを高める推進力ともなります。

その文脈において、本日の気候変動・開発フォーラムは、関係国と開発パートナーが共に議論するという、またとないすばらしい場を提供するものです。GCFの活用を含む、太平洋地域における気候変動と開発に関する今後の方向性と課題を特定する機会となることを期待いたします。

太平洋島嶼国首脳のご経験とお考えは効果的な開発を検討する上で、大変貴重なものです。また、この地域において、国際・地域開発機関が地球温暖化対策に如何にして取り組んでいるのかを共有していただくことは、大変有益です。本日は、フランスからフィリップ・ゼレ・アジア大洋州担当気候変動大使にご参加頂いていますので、クロージングセッションにおいてCOP21の成功に向けた有益な御発言を頂きたいと思えます。

本フォーラムが、本日ご参加いただいている太平洋島嶼国首脳と太平洋地域の友人の間のつながりを強化し、太平洋地域における気候変動と開発分野の取り組みに貢献することを期待いたします。

ご清聴ありがとうございました。